

## 錦帯橋（木造）が50年ぶりに架け替えられました！

日本三名橋（日本橋、眼鏡橋）、日本三大奇矯（猿橋、木曾の棧）として有名な山口県岩国市の錦帯橋の架け替えが、去る3月20日終わりました。

錦帯橋は江戸時代（1673年）に架けられましたが、30回ほどの架け替えを行い現在に到っています。橋長193.3mを三連のアーチ橋と両端の桁橋からなっている木造橋です。同じく5連橋で、日本一の長大石橋と言われる鹿児島島の武之橋はこれより200年弱後（1848年）に造られましたが、全長は71mとおよそ3分の1です。日本の独創的な木造技術のすばらしさがこれからも想像できます。

前回、昭和25年のキジア台風で流出し、2回目の全面架け替えを行い、このとき橋脚はコンクリートで作られました。以来、半世紀が過ぎ老朽化が進んだ為今回の架け替えとなりました。工期は平成13年12月から16年3月までの渇水期（12月～3月）の3工期で、総工費は26億円。木材費は半分の13億円。松、桧、ケヤキ、ヒバ、クリ、カシ。すべて国産材だそうです。輸入材を使えばもっと安くなったかもしれませんが国産材にこだわったそうです。それとこの建設に関った人は全て地元の職人さんで、昔の技術を勉強しながらやったそうです。（伊勢神宮の20年遷都なら技術も伝承されるが、50年経つと前回の工事に携わった人がほとんどいない為、資料を調べながらの工事になった。）

構造は4～7m弱の主桁をくさびを挟みながら11段にわたって帯鉄で束ねながらせり出していく構造になっています。この構造の主桁が1m間隔に5列並び梁材で横方向に結合されています。この他、鞍木（V字に組み、筋違いの働き）と肋木（板状）で補強されています。また松は桁材として、クリは桁の雨覆いとして使うなど、適材適所に使われています。

戦後、伝統的な木造住宅は建築基準法で規制され、その技術は途絶えようとしています。最近、一部で漆喰工法や、貫工法の見直しが始まっていますが、地域に残された太床や客呂といった伝統工法を、後世に残す努力をしましょう。そのためにも、錦帯橋をはじめ、昔の工法が残されている木造建造物を、ゆっくりと見てみたいものですね。

### 【情報】 住宅業界パワーアップセミナーが行われます

日時 平成16年5月21日（金）PM1:30～PM4:10

場所 ベイサイドガーデン1F 錦江

内容 「お客さまの信頼を得る住まいづくりの提案テクニック」

建築家 岡部 克哉 氏 （TV「大改造!!劇的ビフォーアフター」に出演）

「住宅市場における“ムベーパーナマ”画像の特徴と訴求力」

岩山 泉 氏 （コンフォートソフィア(株)専務）

主催 九州電力

申込 先着130名 Faxによる申込期限5月17日（099-285-5372）

【定休日】 5月は2,3,4,5,9,16,23,30日となります

6月は5,6,12,13,19,20,26,27日となります

ご協力をお願いします。

（お問い合わせは、お客様サービス係の東野まで）

